

# VERA ユーザーズミーティング議論 まとめ

## 全体を通して

- ・ VLBI グループはいろんな方向 (VERA, EAVN, SKA, sub-mm VLBI ...) に広がりすぎている。
- ・ 一方で全ての人が 1 つのプロジェクトだけに向かうというわけにもいかないだろう。
- ・ 将来を見据えて、これらの方向性の取舍選択、大学の役割について今後の議論は必要だろう。
- ・ 日本の電波天文の将来について、ベクトルは違うにしても恐らく誰もが何かしら考えているだろう
- ・ そういった埋もれている色々な意見を表に出すことも大事
- ・ 若手や学生が発言しやすい場を設けることも大事 (場に限らず意見を出すことも大事だが)

## 1. VSOP-2

- 1) 技術開発やサイエンス面で、外国との実質的な協力も重要ではないか。  
これは 2008 外部評価のコメントでもある
- 2) VLBA も同様の状況だった。外国とのアプローチで今の状況をひっくり返す可能性は無いのか？

## 2. 東アジア VLBI

- 1) 単にマシンタイムの皮算用ではなく、例えば仕分けで何か言われても言い返せるような議論を重ねておくべき
- 2) サイエンスを主眼に議論すべきである。そのために例えば、i) アレイの売りを明確にする、ii) 世界の中でもまれてこそいいプロポーザルができる
- 3) デモンストレーションや試験観測の目的をもっと明確にするべき
- 4) そもそも、日本だけで議論していい問題ではない

## 3. VERA

- 1) VERA は general purpose ではなく、極めて特殊な望遠鏡で、共同利用にはなじまないのでは
- 2) 天文台から大学へのケアがもっと必要ではないか (データリダクションのサポート等)

## 4. VLBI の将来 (post VERA も視野に)

- 1) これまでは、どんどん手を広げてやってきた (野辺山から VLBI まで)。  
しかし、人類のリソースを使い切る前に、撤退することも考える時期である
- 2) VERA の到達点が見えてきた印象。これは、店じまいの時期が迫っていることを意味する。  
撤退の勇気を持つ必要。主には 20 代の問題だが、50-60 代も一緒に考えるべき
- 3) ロードマップの必要性を強く感じる。今後のスペース VLBI に向けた道筋をつけることが VSOP-2 開発の方向性につながる
- 4) VERA の nominal な終了時期は 2020 ごろと考えており、それ以降の展望を検討しないと